

太陽圏イメージング装置の建設（２００７～２００８年）



工事は基礎となる大きな鋼管の搬入から始まりました（左）。建設予定地は、きれいに整地され、くいが打たれました（右）。



バラボラ反射面を支える電柱が立ち始めました（左）。中央のタワーも姿を現しました（下）。



アンテナ（構造体）の建設が完了したときの記念写真（左）
しかし、まだ終わりではありません。
ダイポール素子の開発・取り付け、
フェーズドアレイ受信機の開発と作業は続きます。



左右の反射鏡焦線にダイポール素子がつりつけられ、中央ダクトにはフェーズとアレイ受信機が設置されました。

アンテナ開発中の豊川で、海外からの研究者を招いてIPS国際ワークショップが開催されました（右、下）。



研究所の東山キャンパスへの移転もアンテナ開発と並行して行われました。上の写真は、豊川の研究室における最後の集合写真です。移転後は、名古屋から豊川へ通って完成させました。

毎年恒例の木曽観測所一般公開



観測所は交通の便が悪いのですが、毎年、多くの人が訪れます。



研究所一般公開（～2006年度）

豊川アンテナの近くで太陽風研究室の展示・説明を行いました。



太陽黒点の観察やBSアンテナを使った太陽電波の受信も行っています。



子供たちを対象に、電気回路の制作や電波に関する実験を行いました。実験のおもしろさが伝わったかな。

観測所での作業

アンテナは台風や雷、積雪により大きな被害を受けることがあります。被害が起こるとび懸命の復旧作業を行い、アンテナをよみがえらせてきました。

